



整備効果

みやぎ東北高速幹線道路の整備により、次のような効果が期待されます。

1. 主要都市間のアクセス時間短縮

みやぎ東北高速幹線道路の整備により、主要都市間のアクセス時間が短縮されます。特に、内陸部と沿岸部の間に位置する登米市へのアクセス時間短縮により、宮城県北の都市間連携が強化され、産業・経済・文化など、さまざまな分野への波及効果が期待できます。

◎登米市 ⇄ 栗原市	31分 → 23分 = 8分短縮
◎登米市 ⇄ 南三陸町	38分 → 29分 = 9分短縮
◎登米市 ⇄ 石巻市	60分 → 43分 = 17分短縮
◎登米市 ⇄ 仙台市	90分 → 82分 = 8分短縮



2. 地域産業の支援

近年当該路線沿線地域においては自動車関連産業の企業集積が進んでいます。道路整備により沿線地域を含めた圏域全体の集積が進み、県内の生産拠点との有機的な連携により県全体への大きな波及効果が期待されます。本県においては高速道路のインターチェンジへのアクセスの良好な地域に対しての企業進出が目立っています。「みやぎ東北高速幹線道路」の供用により、沿線地域への企業立地が大いに期待されます。



長沼工業団地



3. 交通渋滞の緩和・交通事故の軽減

みやぎ東北高速幹線道路の整備により市街地内を通過する交通は減少すると考えられ、交通渋滞の緩和が期待されます。また現在の県道若柳築館線では歩道のない道路に大型車と歩行者が混在し、交通事故も多発しています。道路整備によって現道の交通量が減少することにより、交通事故が減少すると考えられます。



4. 救急医療の支援

「みやぎ東北幹線道路」の整備により、登米地域の中心である市役所から、第三次救急医療機関である「石巻赤十字病院」までの収容所要時間は、現在の約60分から約43分に17分短縮されます。Ⅳ期（築館工区）の整備により、栗原中央病院～登米市民病院間の所要時間は現在の約28分から約24分に4分短縮されます。このように一刻を争う救急搬送にとって大変大きな効果が期待できると考えられます。



5. 防災道路ネットワークの構築

東日本大震災では、沿岸部の高速道路が救助救援活動や緊急物資輸送などにおいて大きく貢献し、「命の道」として重要な役割を果たしました。沿岸部と内陸部を結ぶ「みやぎ東北高速幹線道路」の整備により、有事の際に三陸縦貫自動車道に迅速かつ確実にアクセス可能となり、災害対応に大きな効果を発揮することが期待できます。



津波により寸断された国道45号(南三陸町)

